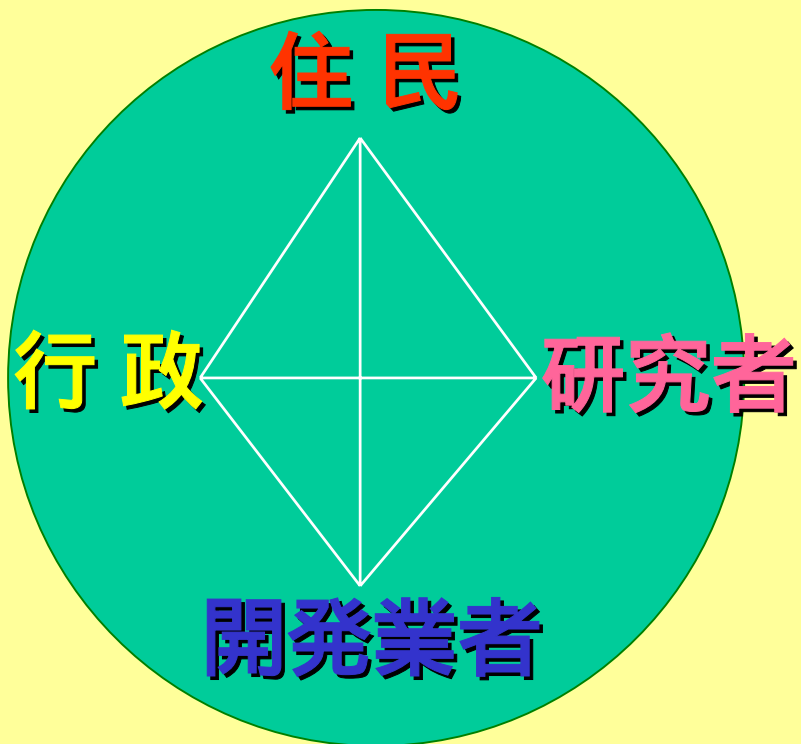


災害との共存 は可能か？



悩ましい三角(四角)関係

市街地における崖崩れ・土砂災害

豪雨災害と地震災害及び両者の相互作用
としての競合災害

なぜ人は崖地を開発しそこに住むのか？

住 民：経済性・利便性・快適性の追及
安全性の軽視・無知
行政への依存体質

行 政：法的規制・許可権限
急傾斜地崩壊危険区域の設定
防災啓蒙活動
非常時の防災対策・避難勧告

開発業者：崖斜面・崖直下の開発行為
ニーズ，合法的

研 究 者：危険度の定量的評価方法の提示
安全性の価格表示と合意形成
情報提供・情報公開

人々はなぜ危険な場所に 住まなければならないのか？

ある講習会でのフロアーの反応によれば

危険な場所であることを知らない	ごく少数
今まで災害に遭ったことがない	ごく少数
もし困れば行政が何とかしてくれる	圧倒的多数
知ってはいるが土地代が安い	少数

後手(災害復旧)から先手(災害予防)へ回るには
土砂災害防止法をうまく活用する必要がある！

高橋裕著：国土の変貌と水害(1971)によれば



水害の重荷(汚名)を負う日本

豪雨を受け止める国土が変貌すれば洪水の暴れ方は変わり，人間の住み方が変われば水害の現われ方は変わる．

昭和30年頃までは河床上昇(天井川)に悩まされそれ以降は建設ブームによる骨材需要の急上昇で河床低下へと逆転した．

従来は自然の暴力が人間を攻撃するのが自然災害であったが，最近では人間が水害の舞台を用意し，そこへ豪雨という自然の力が加わって水害が発生するようになった．

治水への住民参加，住民との対話は，自治体の熱意と自治能力の試金石．

